

IFSCC Congress 2020 発表演題の発展研究 角質剥離改善剤「オトメユリ」・「タラゴン」特許登録

約90年の角層研究の最新特許 ふきとり化粧水の効果向上へ

株式会社ナリス化粧品(本社：大阪市福島区 代表取締役社長：村岡弘義)は、約90年にわたり継続してきた角層研究の成果として、角質剥離を促進する2種の植物成分(オトメユリ・タラゴン)を見出し、特許登録に至りましたのでその内容を以下にまとめます。これらの成分をふきとり化粧水に配合することで、より高い効果実感とその人が本来持つ美しさを引き出す角層ケア体験の提供を目指します。※当社では、肌の最外層そのものを「角層」、不要な老化角質のことを「角質」と表現しています。



オトメユリ



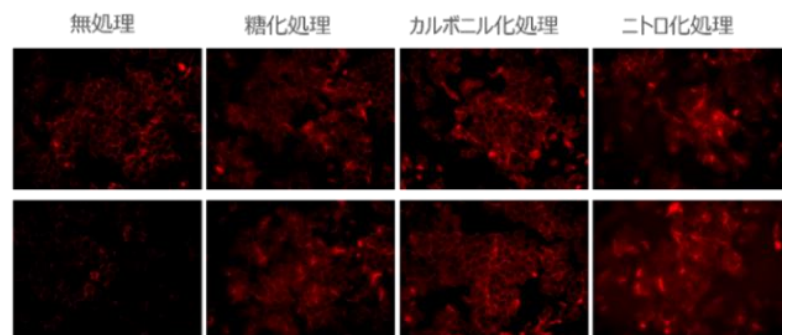
タラゴン

■研究の背景

当社は、1937年に老化角質を取り除くことで肌に栄養を与えることを目的としたふきとり化粧水「ナリス コンク」を発売して以来、途絶えることなく角層研究を続けてきました。皮膚は生まれてから老化角質となって剥がれ落ちるまでにタンパク質が、糖化・カルボニル化・ニトロ化など様々な変化をすることが知られていますが、最後に剥がれ落ちる角層剥離に対して、これらのタンパク質の変化がどのように影響しているのかを突き止め、2020年に開催された化粧品技術者の国際学会であるIFSCC Congressにて発表しています。演題名：Protein modification leading to serious skin desquamation loss
和文：角層剥離の深刻な低下につながるタンパク質の修飾

■これまでの研究と特許の内容

角層剥離には、角層細胞を接着する因子と、この接着因子を分解する酵素が関与します。当社では、角層の厚さや関連成分との関係を調べた結果、角層細胞の接着因子であるDSG1が糖化・カルボニル化・ニトロ化されると分解酵素による接着因子の分解が抑制されることを確認しました。その結果として、角層剥離が正常に行われず、角層の肥厚が生じる可能性があることを明らかにしました。このような接着因子が分解されにくくなることを防いだり解消する成分として小ぶりでピンク色の花びらを持つ「オトメユリ」と料理にも使用されるスパイスとしても知られるハーブの「タラゴン」を見出し、特許申請し登録に至りました。



赤色 = DSG1 糖化・カルボニル化・ニトロ化した角層では、DSG1の分解が抑制

【本件に関するお問い合わせ】 株式会社 ナリス化粧品 経営企画室 広報 横谷(よこたに)
〒553-0001 大阪市福島区海老江1丁目11番17号 TEL:06-6346-6672
FAX:06-6346-6569 E-mail:narispr@naris.co.jp HP:www.naris.co.jp

【特許登録番号】7820193

【登録日】2026年2月16日

【名称】角層剥離改善剤

【発明者】ナリス化粧品 研究開発部 森田哲史

【進化するふきとり研究プロジェクト】

1932年の創業時から研究開発部門を持つ当社において、角層およびふきとり化粧水の研究は最重点分野のひとつです。これまでに成分開発のみならず、感性価値や、製造技術などの研究も行い、IFSCC congressをはじめとする学会での発表を行っています。当社のふきとり研究プロジェクトの主要メンバーでもある森田哲史は、「当社には、独自の角質除去成分『白花豆エキス/ヘニバニンゲン種子エキス（保湿剤）』があります。今回の特許登録成分を「白花豆エキス」と組み合わせたり、これまでのふきとり化粧水と組み合わせることで、さらにふきとり化粧水の効果を引き上げることに繋がるため、広がりのある研究だと考えます。」と語ります。

【ふきとり化粧水とは】

余分な老化角質を取り除くことにより、肌のターンオーバーに働きかけ、後で使用する化粧品のなじみを高める目的で1937年に、創業者である村岡満義により開発・発売。当時は「塗り重ねること」がスキンケアの常識であったため、常識を覆した商品として注目を浴びました。当社では、洗顔の後に「ふきとり化粧水」を使用してから「化粧水」を使用するという2種類の化粧水を使用する独自の美容理論のもと、商品を展開しています。なお、当社が外部調査会社で2025年4月に実施した調査では国内企業別ふきとり化粧水販売シェアにおいて10年連続No.1であり、（調査会社：TPCマーケティングリサーチ株式会社 2015年4月～2025年3月実績 調査実施2025年4月）2017年にふきとり化粧水の国内販売シェア第1位を記念し、日本記念日協会に2月10日を「ふきとりの日」と申請し、認定されています。



初のふきとり化粧水 コンク